

中国・揚州大学からの留学生を受け入れ、合同ゼミ “International Joint Seminar Yangzhou univ. × Tohoku univ.” を開催しました。

第4回目となる東北大学と揚州大学との合同研究発表セミナー“International Joint Seminar Yangzhou univ. × Tohoku univ.”を開催しました。東北大学知の創出センターの支援を賜り、知の館・レクチャーシアターの設備を活用したオンライン-オンサイトのハイブリット形式にて実施しました。このセミナーは、After / With コロナの時代における新しいスタイルの国際交流として令和3年度より始まり、今回は新たにカナダのゲルフ大学の学生も加わりました。



今回は、東北大学・動物機能形態学研究室から内野紗江佳さん、動物微生物学研究室から下田蒼さん、揚州大学・趙国琦教授の研究室から Xiaojie Zhou さん、Xuelel Zhang さん、ゲルフ大学・Genetic Improvement of Livestock センターの Ran Xu さんの計5名が研究発表を行いました。内野さんは母乳に含まれる抗体の機能を検証した研究、下田さんは抗生物質に対する耐性菌について解析した研究、Xiaojie さんは茶葉の残渣を家畜飼料として利用することを検討した研究、Xuelel さんはウシの暑熱ストレスを軽減させることを目的とした研究、Ran さんはマイコトキシンによる乳腺環境への影響を解明する研究を発表しました。今回も家畜生産に関して多様な視点から議論を行うことができ、非常に充実したセミナーとなりました。また、揚州大学からの留学生4名（Chaohui Zhang さん、Han Song さん、Yuhang Chen さん、Yuncheng Huang さん）も、東北大での活動について発表しました。4名は様々な動物種の腸管免疫組織を染色するという実験を行い、その結果を感想も交えながら報告しました。

来年度も本セミナーを実施する予定です。これまでオンラインで定期的に交流してきたことにより、相互理解が非常に深まっていると実感しています。またコロナが収束に向かう今、対面での学術交流も企画していき、東北大学と揚州大学との交流をより一層活発にしていきたいと考えています。

この場を借りて、JSPSの研究拠点形成事業からのご支援に深く感謝申し上げます。

伊東加織、野地智法（東北大学大学院農学研究科、食と農免疫国際教育研究センター）



セミナー終了後、
オンライン集合写真撮影